

會議記要 (六)

日時 昭和十八年十月四日午後二時  
場所 國家資力研究所會議室

記

國家資力研究所研究局會議は荒木理事、中川理事、平井氏、渡邊氏、河野研究員、兒山研究員、出席の下に開催さる。本會議に於ては研究員河野和彦氏により近着のアルヒーフ掲載論文（一九四一年九月發行）ヨハネス・デルグセン著「國民所得算定方法の國際的展望」の紹介とア・サ・ボーレイ著「社會現象の測定」中の「生活標準」の紹介あり。之を中心質疑應答ありたる後午後五時閉會せり。

以上



ヨハネス・デルクセン「國民所得算定方法の國際的展望」

Johannes B. D. Derksen : Internationale Übersicht über die Methoden

der Berechnung des Volkseinkommens. (Welt-

wirtschaftliches Archiv, 59--- Bd. 54. Heft. 2

September 1941.

擔當者 河野和彦

「要約」

著者は世界に於る主要國の國民所得算定の理論的狀態につき報告せんとするものである。調査研究家が理論的觀點からこれまでその意見を充分表明してゐる研究には特別に注意を與へてゐる。國民所得の概念規定に於る相異はこの中で主要なる話題の一つとなつてゐるものである。國際的比較は種々の觀點から與へられてゐるのであるが之は第一表として示されてゐるものである。



國民所得統計に起る最も困難な問題の中で行政と租税體系との關聯に於て起る計算がある。この種々なる方法の展望は第二表に與へられてゐるにも拘らず此の問題の充分なる解決策は與へられてゐない。著者はドイツに於て用ひられてゐる方法を論じてゐるのであるが、之によれば所謂主觀的方法によつて計算された國民所得は消費面に於て政府の使用する租税總額によつて増加されるのであつて、納税者から支拂はれる直接税につれて増加するものではない。コリン・クラークによつて提案された方法も亦簡単に論及されてゐる。だが現存せる方法で満足なるものと考へられ得るものは何等ない。一層適切なる問題處理の方法と考へられるものは租税負擔の問題を考慮することである。此の場合に於て租税負擔論は充分な解決を與へて居らぬ即ち租税を全體としての經濟に導き入れた場合にどの様な反應があるかといふ問題を觀過してゐるのであるが之は歳入の使用目的によつて決定されるも



のである。併つて問題は景氣變動型を援用することによつて遂行され得る。之はテンベルゲンによつて發展させられたものである。之等の結果に照して考へて見ると、國民所得調査家に用ひられてゐる租稅體系の處理方法にして極めて充分なるものと考へられるものは何等存在しない。著者は一般に理論的觀點から全體に満足と考へられる解決策を見出すことは不可能なりと考へてゐる。



第一表 國民所得の定義の國際的比較

國名	家庭主婦の服務	自家住宅の賃料	他の對久的消費財の使用	自家消費の抑制的小賣價格	貯蓄による評價の修正	未だ分配されざる利益
ドイツ	-	+	-	-	-	+ 1 % (1929)
スウェーデン	+ 20 % (1930)	+	+ 4 % (1930)	-	-	+
オランダ	-	+	-	-	-	+ 5 % (1929)
フランス	-	+	-	-	-	-
ハンガリー	+ 4 % (1936/37)	+	-	-	-	+
ブルガリア	-	+	-	-	-	+
大英帝國	-	+	-	-	+ 6 % (1930)	+ 3 % (1929)
オーストラリア	-	+ 4 % (1933/34)	-	-	+ 4 % (1930/31)	+ 5 % (1929/30)
インド	-	+	-	-	-	+
合衆國商務省	-	-	-	-	-	+ 3 % (1929)
國家經濟調査局	-	+ 1 % (1935)	-	-	+ 6 % (1930)	+ 3 % (1929)



第二表 國民所得の定義の國際的比較

國名	官公機關	租稅收入による 官公機關の評價	歳出による官 公機關の評價	間接税の 追加計算	納税者に取得され ぬ税の追加計算
ドイツ	+		+	-	+3. % (1937)
スエーデン	+		+	-	+
オランダ	+		+	-	-
フランス	+		+	-	-
ハンガリー	-		+	+8. % (1936-37)	-
ブルガリア	+		+	-	-
大英帝國	+		+	+13. % (1933)	-
オーストラリア	+		+	-	-
インド	+		+	-	-
合衆國商務省	+		+	-	-
國家經濟調査局	+	+		-	-



ボーレイ「生活標準論」

Bowley, A. L. : The Standards of Living. (The Measurement of Social

Phenomena. pp. 149-188. 1915. London.)

擔當者 河野和彦

戦争は國民生活の合理化を圖ることなしには遂行されぬものであつて一國の戦闘力を形成する重要な基底として生活の問題があることは言ふまでもない。處で生活の問題は最も身近かな問題であり乍らまた最も困難な問題であつて標準生活論と云ひ或ひは最低生活論と云ひ議論の一致を見ないのは此の問題自體の持つ複雑さと、論者自身の生活觀生活經驗の相違に基くものと言つて良いにも拘らず國民消費生活の合理的運營は長期戦に於ては不可缺なる要素であり、従つて此等の生活の恣意的階級的性格を轉じて適格なる國民的消費生活秩序を形成する事は重要な課題を荷つてゐると言はねばならぬ。ボーレイの生活標準論は斯る問題



に對する優れた論稿といふのではないが、第一次世界大戦中に發表された論稿であると言ふことゝ、また此の方面に關する文献の數少い現状に鑑みて其の大畧の紹介は必ずしも無意義ではないと考へられる。

×

×

×

「生活標準は慣習によつて支配されるといふこと」

標準的なる家計をもつ所得階級をとつて來て、彼等がその所得をどのようにに支出配分を行つてゐるかを考へて見ると、そこには慣習の力が極めてつよく働いてゐることが示されてゐる。特に衣食住への支出は階級的慣習によつて主として支配されてゐる。だがこれ以外の第一次的に必要とされぬものへの支出（保険、娛樂、煙草、酒、書籍等）は著しい相異を呈してゐる。

型、在來の所得に加へて何等か特別の所得が入つて來て之が慣習的



となるに充分なる期間續くとすれば、標準は所得に一致するか或ひは其の所得變動によつて引上げられるのであるから、増加所得が此の經濟主體に特別の充足感を與へることはなくなる譯である。彼は數多の生活欲望を持つてゐて、之等の欲望を充足するに必要とせられる所得如何を問われる場合には一萬ポンド或ひは三萬ポンドと答へるのが實情である。従つて現在の所得は彼の生活慣習を形成してゐるのであつて、彼にとつては之が標準的なものと考へられてゐる譯である。

最低賃銀への要望の内容を洗つて見ると、之はこれまで達せられてゐた最高の慣習的生活費を意味するものである。だが之はまた屢々最低生存賃銀と何等かの關係を有するものである。賃銀上昇への組織的努力が行はれて來たが、之は生活標準上昇への願望が其の動機となつてゐることは言ふまでもない。所で高い賃銀を與へて生産能率が上昇し、またそれが子供の養育費となつて次の世代の者の幸福を増大させ



る様に作用するならば、實銀増加は無意味ではないが、それが勢力誇示のための奢侈的支出となると之は全く破壊的に作用して來る譯である。處で斯る奢侈的なものにどれ位の支出が行はれたかについては計算する事が出來ぬ。

「慣習的生活標準に於る住宅の標準」世帯にとつて一番重視しなればならぬのは住宅であるが、住宅は人の社會的身分を判断するに際して特に重要性を持つてゐる。労働者が住宅設備や便利さ等に多大の比重を與へてゐるかどうかは極めて疑はしいのであつて、之は所得・地位の上昇するにつれて認められて來るものである。住宅の標準的なるものは採光の宜しいこと、清潔であること、道路との關係に於て位置宜しきこと、子供の通學に便利であること等があげられる。

「慣習的生活標準に於る衣服の標準」衣服は階級を表現するのに最も特徴的なものであるが、標準的なる衣服とは何かと言ふことを示すのは



難しい問題である。衣服なるものが對久性への顧慮と外見への顧慮、此の二つのものから成立してゐるので、その本質的價値を測定するとは不可能である。従つて値段ばかりでなく織絲も異つて來てゐるので、之を貨幣的な標準を以つて決めてかゝることが無理となり無意味なる結果となる。

「慣習的生活標準に於る食物の標準」パン、茶、砂糖、肉、バター、ミルク、ポテートへの家政の支出配分はどうなつてゐるか。標準が高まつて來ると肉、ミルク、卵等への支出が増加して來る。之は半奢侈品である。パン、ポテート、茶、砂糖などは少額所得者に於ても殆んど攝取されてゐる。所得が増加すると其の他の支出項目が増えてくる。量が充されると質の方への配慮が行はれて來るのであつて、これから奢侈的食物への支出が増加して來るのである。

「消費に於る心理的・道德的要素」消費に於る心理的問題は中々に測定困



難なものであるが、此の測定困難な心理的習性が社會改革に於て第一に重要性を持つてゐる譯である。更に賭博や酒、煙草、遊興等にどのようなに支出されてゐるかを知ることが重要であつて、之によつて所得の使途が有害であるか、健全であるかを知ることが出来る。従つて之が可能であるならば、當代人の道德的資質を測定することが可能である。

×

×

×

「慣習的生活標準の要約」以上を要すれば慣習的生活標準とは次の如く解することが出来る。「一般的生活型が似てゐる家族及び同一社會或ひは同一國に於て認識し測定可能なる特質について他の集團と異なる標準を持つ集團、之等の者によつて殆んど同一量の財及び用益が恆常的に獲得される生活複合體」即ち之である。



「最低生活標準」慣習的生活標準と最低生活標準とは明確に區別して考へねばならぬ。慣習的なるものは或る階級に慣例的となつてあるものを云ふのであるが、最低的なるものは(1)健康が維持さるべきこと(2)一定の勞働或ひは職業について一定の能率を發揮すること、此の二つが標準の規準とならねばならぬ。即ち最高の生産力を發揮するに必要とされる最低の衣食住といふ事になるのであつて、通常考へられてゐる最低標準とは異つたものである。所で健康と産出額或ひは生産能率とは食糧或ひは其の他の有用なる必需品の量によつて左右されるものである。産出額は消費の函數である。従つて最低を論ずることは能率との關聯に於て考へられねばならぬ。此の方面に關する研究はロイントリによつて行はれたものである。

「ロイントリの研究内容」ロイントリの研究結果に依ればどれだけの所得があれば充分か或ひは不充分か等の問題を解くことは出來ぬが



現在の健康、生産額を維持するにはどれだけのものが要るかといふことは測定可能なりと云ふ。人間が馬のように単に效用の生産者に止るならば、營養の増加費がまさしく産額の増加價値に等しくなる點に求められるであらう。此の均衡點は労働種別を異にし又經濟的地位を異にするに従つて異つた水準で達せられることになるであらう。更にそれは人間労働の限界價値に依存し、また能率を増加させるに必要とされる特別の營養費用に依存するものである。その均衡は低い生活と緩慢なる労働を以つて達せられるしまた高い生活と高度の労働によつても達せられるが低い生活と高度の労働を以つて達せられぬものである。確定賃金が果して均衡的なものであるかどうかといふ事については何等證明すべき手段を缺いてゐる。

日常食物中にはエネルギーを作り出し肉體組織を形成する成分が備はつてゐる譯で食事の慣例からすれば一定強度の労働をするに充分な



るものが之から求められるものと考へられる譯である。所で或る種の過重労働について見るならば、まだ、食事を必要とし殊に個人に於て異つてゐる食物攝取量と營養とについて相當必要とするものがある。と考へられる。ロントリーによつて普及された食事のスケールが明快なものだと考へられる。之は低い生活状態を考へるに有用な尺度と考へられる。之を貧乏線と考へることは出来ぬにしても便利な基準線を形成するものと考へられる。

「要約」所で皮肉な事には人数はロントリーが最低だと考へたものよりも低い水準の生活をして來た譯である。このことは特に重要性を持つものである。

次に住宅である。住宅標準なるものが慣習的なものであることは明かである。勿論最低基準なるものは上昇しつつある。また家族規模の縮小に伴つて部屋數も一層簡單になつて行くのは注目するに値する。



食物以外の必需品への支出は全く慣習的なものである。とにかくロンドン  
トリの標準なるものは現實よりも可成り高くなつてゐる。